

## 2024年 夏季参加報告書

参加プログラム：ケント大学

参加時の学年：4年、学部：社会、学科：社会

今回の留学の目的は、海外の友人をつくることと、日常会話ができるようになることだった。また、それによって英語への恐怖感や嫌悪感をなくし、話すことに対して自信を持ちたいと考えていた。そのために、事前に映画を見て耳をならしたり、語彙力を増やすために、単語帳を使って単語を覚えていた。また、発音をよくするためにAIと練習をしていた。

留学中の一日は、まず起床したらCO-OPに朝食を買いに行き食べる。その後授業に向かう。今回の授業は1コマ1.5時間で、9:30-11:00、30分休憩、11:30-13:00、1時間休憩、14:00-15:30という授業の流れだった。それ以外にも、1日使って城に行ったり、夕方からケント大学の学生アンバサダーとスポーツをしたり映画を見たりする時間もあった。休憩時には寮に戻ってご飯を食べる人や仮眠をとる人、本屋さんに行ったり、カフェの店員さんと話したり、現地の友達を作るべく一人である人に話しかける人もいた。私は放課後は、カンタベリーまで行くことが多かった。カンタベリーの街は自然、歴史的建造物、買い物ができるお店やレストラン、カフェ、映画館などの様々な施設がある。ただ楽しむだけでなく、地元の人が多い街なのでイギリスの生活を感じることもできる。徒歩30分くらいの距離なので、散歩がてら行く人も多かったように思う。

留学中に印象に残ったことは、イギリスののんびりした空気感である。ずっと日本で生まれ育った私の考え方や価値観と比較することができ、様々な違いが見れて面白かった。例えば知らない人でもすれ違う時に「すみません」「ありがとうございます」を必ずいうことだ。相手への気遣いが常にあり、相手のことを尊重していると感じた。それと共に、自分自身の意見ややりたいことを非常に大切にしていると感じた。感覚なども大切にしていると思った。また、おおらかな良い点がある反面、時間に対してはルーズな部分があると感じた。友人と約束をすると、2回に1回は必ず時間変更があったり、公共交通機関も時間が遅れたり。時間以外でも、バスの運転などは日本と違いかなり激しい。電車では普通に電話をし、大きな声ではしゃぎ、お酒もご飯も食べていた。全く不快ではないが、ただただ不思議な感覚だった。



エンターテインメントで印象に残ったのは、見に行ったミュージカルである。FROZEN（アナと雪の女王）、レ・ミゼラブルを見に行ったのだが、その歌唱力や演技力、劇場の美しさやセットの迫力にも、全てに圧倒された。多くの観光客が訪れていたようで、日本人も多く見かけた。また、現地のお祭りに先生が連れて行ってくれ、その陽気な雰囲気も楽しんだ。景色で印象に残っているのが、大学の周りの自然、イギリスの伝統的な建造物だ。大学は見晴らしが良い芝生があって夜は星がよく見れた。ウサギやリスやキツネも見かけた。ロンドンに行った際は、ビッグベンや博物館、宮殿など、石造りの繊細な美しい技術を見ることができた。気を付ければ危ない目には合わなかったので過ごしやすかった。



留学して成長したと実感したことは、リスニング力だ。お店に行っても、大学内でも、聞こえてくる言語のほとんどが英語でずっと聞いているうちに、最初よりは帰るときの方が断然聞き取れるようになった。リスニングができるようになると、コミュニケーションが楽しくなる。ただ、そこで、スピーキングの壁にぶつかった。スピード感のある日常会話では、ゆっくりと考えている時間はあまりなく、返答をしなくてはならない。なんとか単語を繋いで言いたいことを汲み取ってくれるけど、浅い会話になってしまうのが非常に悔しかった。一方でスピーキングでも成長した点がある。それは、話す自信がついたということだ。自信をもつということがいかに大切なことなのかを実感することができた。この自信は、ネイティブのように話せることではなく、間違いを恐れずに発言すれば、なんとかなるとのことだ。とにかく話すことに自信をもち、自分の判断基準をもってそれをシンプルに伝えることで、友人をつくり日常会話ができるようになるという目標を達成することができた。今後も英語の勉強をし続けたいと思う。